

金城学院大学 シラバス

開講年度(Year)	2021年度	開講科目コード(Course code)	37460001
授業科目名(Course name)	音楽芸術学演習（４）		
担当者(Instructors)	能勢 健司		
開設学部学科(Department)	文学部 音楽芸術学科	科目分類番号(Course classification number)	263
開講クラス(Class)	音 4	開講形態 (Course format)	演習
科目区分(Course classification)	専門教育科目 専門教育科目	単位数(Credits)	1
開講期・曜日・時限(Semester / Day of the week / Period)	後期 木曜 2 限	担当形態 (Instructor format)	単独
実験実習費 (円) (Experiment/training fee (yen))		履修者数上限 (名) (Maximum number of students)	52
他学部他学科生履修不可(No other undergraduate departments students can study)			

■授業の概要(Course outline)
どの音楽を奏でる際にも、フレージングやメロディーを歌うことは大きな課題になると考えられる。音楽の原点である声楽を実践して学ぶことで、声の可能性と、『歌う』ことの大切さを体感させ、声楽教則本のコンコーネ５０番、イタリア古典歌曲、シューベルト歌曲、日本歌曲を学生の声、レベルと個性にあわせてとりあげながら、声楽の基本や、それぞれに適した楽曲表現を学んでいく

■到達目標(Course goals)
発表演習、マスタークラス（公開レッスン形式）により演奏力が更に向上している。

■履修上の留意点(Important points)

■学位授与方針 (Diploma policy)
1. 知識・理解 音楽芸術に関する専門的知識と演奏技能を身につけるとともに、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけている。 ◎
2. 汎用的技能 音楽芸術の実技と理論を通じて身につけた感性と思考力を用いて、物事を的確に分析し考察することができる。 ◎ 日本語や英語で多様な人々とコミュニケーションを行うとともに、音楽演奏を通じて様々な楽想を適切に表現し伝えることができる。 ◎
3. 態度・志向性 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。 ○
4. 統合的な学修経験と創造的思考力 これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな研究課題に取り組むことができる。 ◎

■授業計画(Lesson plan)
1. 良い声とはなにか。声楽に必要な柔軟な体を作るエクササイズの実践。
2. ペルカント唱法とは何か。声の支えを感じる。ヴォカリーズ練習（半音）
3. 柔軟な声。下顎と舌根の脱力。ヴォカリーズ（全音）

4. きれいな母音を作る。ヴォカリーズ練習（A.E.I.O.U）
5. ヴォカリーズ+コンコーネ５０よりNo.1 スケールでの息の運び
6. ヴォカリーズ+コンコーネ５０よりNo.2 全音のフレーズ感。
7. ヴォカリーズ+コンコーネ５０よりNo.3 レガートの息の流れ。
8. イタリア古典歌曲（１）イタリア語の発音と発語 「Caro mio ben」を用いて。
9. イタリア古典歌曲（２）正しい技術と表現 「Caro mio ben」を用いて。
10. イタリア古典歌曲（３）イタリア語作品の音楽表現「Sebben crudele」を用いて。
11. シューベルト歌曲（１）ドイツ語の発音と発語 「Frühlingsglaube」を用いて。
12. シューベルト歌曲（２）ドイツ語作品の音楽表現 「Heidenröslein」を用いて。
13. 日本歌曲（１）日本語の発音と発語、及び技術と表現 「かやの木山の」を用いて。
14. 日本歌曲（２）日本語作品の音楽表現 「からたちの花」を用いて。
15. 授業内試験と講評

■授業時間外学修（予習・復習）の内容・時間(Preparation/review details and time)
演奏技術向上の為、自己の課題を見つけ、日々練習や研究をする

■課題／課題に対するフィードバックの方法(Assignments/feedback)
レッスンで学んだことや課題を持ち帰り、真摯に自分の技術や音楽表現のスキルアップをはかろう！ フィードバックは授業時に随時対応する。

■テキスト・参考書(Textbooks/references)
コンコーネ５０番 イタリア古典歌曲集 シューベルト歌曲集 日本歌曲集等 ＊学生の技量と進度にあわせて

■評価方法(Evaluation method)
実技試験 70% 関心・意欲・態度 30%

■授業時間外の学生からの質問への対応(Responding to questions from students outside class hours)
授業時間前後またKmail等で随時受け付ける